

分野別講座 いかにか「乳幼児期」が大事か！ 参加人数 8名

まとめ 小川慶子

○幼児期に大切なこと

小川 慶子

入学時の国語・算数の個人差は、その後の学習にも影響する。就学前にしておきたいことはプリント学習ではなく、生活と遊びの中で学習の土台となる力を育てること。数・量・形を意識させる言葉かけをすることで算数の力は育つ。遊びに熱中すると効果も高まる。手を使った遊び歌も効果的。

○脳科学にもとづいた子育て

岡 美恵

○線維カレス系を刺激すること（スキンシップ）により信頼関係と親密さが増し、心が安定する。話しかける・喃語に相槌を打つ・童謡を聞かせる・読み聞かせをする（聴覚性言語）。つまむことができたならクレヨンでお絵かき・折り紙など成長を見ながら働きかけをする。会場にきた（まだおしゃべりはしないが大人の言うことをよく理解できるといふ）一歳のお孫さんの姿からその効果を感じた。

○非認知能力 西村 幹子

忍耐力・社会性・感情コントロールなど、感情や心の動きに関連する能力。認知能力（IQではかれる力）を育むためにも重要。子どものありのままを受け止め自己肯定感をもたせる。好奇心を尊重し遊びこませる。問い返し・質問で考える力を伸ばす。外で体を動かし自然に触れる集団遊びは失敗から立ち直り、挑戦する経験を豊かにする。

○就学前の語彙力と算数力が就学後の学力を決定する 雨越 康子

入学時の読む力の個人差は4年生まで維持される。（データより）未就学児の読み聞かせは語彙力を向上させ、やがて自分で読み、読書する習慣の獲得につながる。読む力は読解力につながる。子どもは幼児期からの語りかけ・読み聞かせにより言葉覚え、同じ絵本を繰り返し読み聞かせることでそらんじることが出来る。日常生活の中に語りかけ・絵本・わらべ歌・童謡・かるたなど言葉の刺激を。

分野別講座「おろそかにしてはいけない」 参加人数 5名

鉛筆の持ち方」 まとめ 小川 慶子

提案 前田 昌彦

●スプーン→箸→鉛筆の流れで

スプーンを二本の指で持ち、コップの水をかき混ぜる動作をすると、上手に力が抜ける。そのまま手首を90度回転させ中指の爪にスプーンをあてる。これがスプーンの持ち方。そして箸ですれば、上箸の持ち方！中指を使って箸を上下に動かしてみる。スムーズにできるように練習する。

●箸の持ち方のコツ

- ①両手を合わせて右側から4分の1のところを持つ②下箸を親指のつけ根ではさみ、左手で左端をもち右手のひらを箸に近づける③薬指と小指は折り曲げ、下箸は薬指の爪の生え際にのせる。④上箸は先ほどの要領で持ち、左手で先を下箸にそるえる。上箸と親指が直角になっていることを確認する。⑤中指を使い、上箸を上下に動かしてみると、カチカチと鳴れば大成功。力が入るとうまく鳴らない。

●鉛筆の持ち方のコツ

- ①スプーン→箸で指が軽く動かせる

れば鉛筆も上手に使える

- ②上箸の持ち方から、親指を人差し指のところへ移動させ、そのまま鉛筆の削り際までもつていく。
- ③薬指と小指は中指に添わせる。
- ④鉛筆側面が人差し指第2関節まで添っていることを確かめる。
- ⑤豆状骨を手の支点にし、少し手首を立てると5本の指全てを使って文字が書ける⑥1行書いたら鉛筆を回し（芯の違う面を使うように）、鉛筆の先を前に出し、力が入りすぎるのをリセットする。

●姿勢は大事！座骨ですわる！

- ①両足は床にピタ②机とおなかは握りこぶしグー③背もたれせずグー④両手でチョキ機の天板はさみ背筋のばす⑤両手でパ―鼻先から机まで2つ⑥両脇締めて三角形、右手を直角に立て右胸前で書く！声出しながら確認！
- 定着のためには
ユビックスを使う。鉛筆を持ち、反対の手で手首を固定し鉛筆を上下に動かす「指のリハビリ」をする。